

BAND SCORE

COWBOYS FROM HELL

バンテラ/カウボーイズ・フロム・ヘル

NICHION, INC. SLINKE MUSIC PUR DE LTE

CONTENTS

COWBOYS FROM HELL 5 カウボーイズ・フロム・ヘル		
PRIMAL CONCRETE プライマル・コンクリート・ス		17
PSYCHO HOLIDAY サイコ・ホリデイ	27	
HERESY 37 ハラシー		
CEMPTERY CATEC	67	

CEMETERY GATES 57 セミトリー・ゲイツ DOMINATION 76

ドミネーション SHATTERED 95 シャタード

CLASH WITH REALITY 110 クラッシュ・ウィズ・リアリティ

MEDICINE MAN 130 メディシン・マン MESSAGE IN BLOOD 142

MESSAGE IN BLOOD メッセージ・イン・ブラッド

THE SLEEP 161 ザ・スリープ

THE ART OF SHREDDING 176 ジ・アート・オブ・シュレッディング



カウボーイズ・フロム・ヘル

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

Intro①で鳴っているシーケンサー・フレーズは、あそらくギターの音をサンプリングしたものを鳴らしているのだろう。この程度のサウンドならば、サンプリング・マシーンなどを使わなくとも、デジタル・ディレイを使えば同様の効果は出せるはずだ。Intro ②の5小節目から弾かれているギターは、右手を弦にくっつけるようにして、ミュートしながらピッキングしている。これと同じりフを、Intro②ではミュートしないで弾いているわけだ。ここからはギターとベースはユニゾンでの演奏だ。リズムをしっかりと合わせるようにしたい。この曲のリズムは16ビートだ。テンポは決して速くないので、1つ1つの16分音符を正確なリズムでプレイするようにしよう。Intro③から弾かれているギターのリフで

も、リズムがポイントとなるだろう。ここは、はぎれの良いピッキングで16分音符も正確に弾くようにしたい。ドラムの基本パターンは、ハイハットを8つ刻んだものになっているが、決して8ビートのプリで叩かずに、常に16分音符を意識しながらプレイするように。又、このハイハットは、ハーフ・オープンにして、力強く叩くようにしよう。回はギター・ソロだ。ここでは、ハード・ディストーション他、ディレイも少しかけると良いだろう。回の5小節目からは、かなりスピードの速いフレーズが連続して弾かれている。6連符や7連符といった変則的なリズムが、多く弾かれているので気をつけてもらいたい。































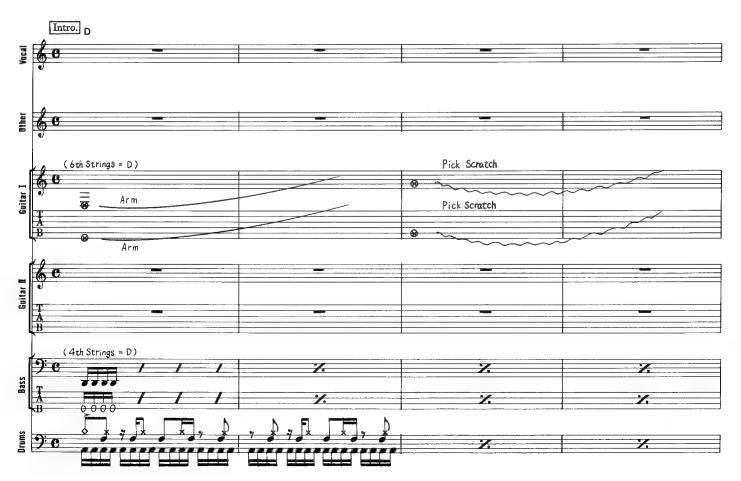


PRIMAL CONCRETE SLEDGE

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

この曲では、ギターやベースの最低弦をD音に下げてチューニ ングしている。Introから、このD音を強調した16ビートのパター ンをベースが弾いている。このIntroの最初の部分で弾かれている ギターは、アーミングやピック・スクラッチのテクニックを使っ た、ノイジーなプレイだ。この部分は、ディレイをかけて弾くと 効果的だろう。ドラムは、バスドラを16分音符で連打しており、 ダブル・ペダルを使って正確なリズムでプレイするようにしたい。 Introの5小節目からのギター・リフは、16分音符3つで1つのパ ターンとなっており、少し複雑なリズムとなっている。ベースや ドラムと共に、正確なビートをキープし、小節を見失わないよう に注意しよう。しつかりとしたリズム感がないと、ちょつと演奏

することは難しい曲だ。これは、囚からのヴォーカルにも言える ことだ。パンテラの曲は、そのハードなサウンドと共に、このよ うな複雑なリズムもその特色の1つにあげることができるだろう。 △の8~9小節目の変拍子の部分なども、注意して演奏してもら いたい。◎の部分では、リズムのノリガ変わっている。ここでの ギターは単音でのメロディ・プレイだ。ここは、ハンマリングや プリングのテクニックで、トリルの要領で弾いているものだ。同 の13~15小節目では、オーバー・ダビングされたギターが、スピ 一ドの速いフィル・イン・フレーズを弾いている。ここは1つ1 つの音を、オルタネイト・ピッキングで、しっかりとピッキング しよう。























T

Bass







PSYCHO HOLIDAY

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

リズム・マシーンを使ったと思われる、機械的なパーカッショ ンの6連符からこの曲はスタートしている。この曲では、16分音 符がすべて3連符のノリになっているので注意しよう。特に、ド ラムのバスドラは、16分の連打が多いので、しつかりと3連のノ リをキープしてもらいたい。ハイハットは8分音符で刻んでいる が、ハーフ・オープンにしてパワフルにプレイしよう。△の直前 の小節は、∮拍子という変拍子になっている。ここは、半拍分の ブレークが入っていると考えて演奏すると良いだろう。その他、 □の2小節前では²/拍子の小節も出てきているので、リズムに気

をつけて各パートのタイミングをしっかりと合わせるようにしよ う。固の部分のギターは、白玉でコードを弾いているが、ここで はエフェクターとしてワウ・ペダルも使われている。ペダルは、 ゆっくりと踏み込むようにしよう。◎では長いギター・ソロが弾 かれている。ここのギター・サウンドは、バッキングと同様にハ ード・ディストーションのかけられたものだが、バッキングと少 しサウンドを変えて、少しソフトな感じでプレイしている。ソロ の最後の音は、24フレットでのチョーキングだ。22フレットまで のギターでは、アームを使って音をアップさせると良いだろう。





























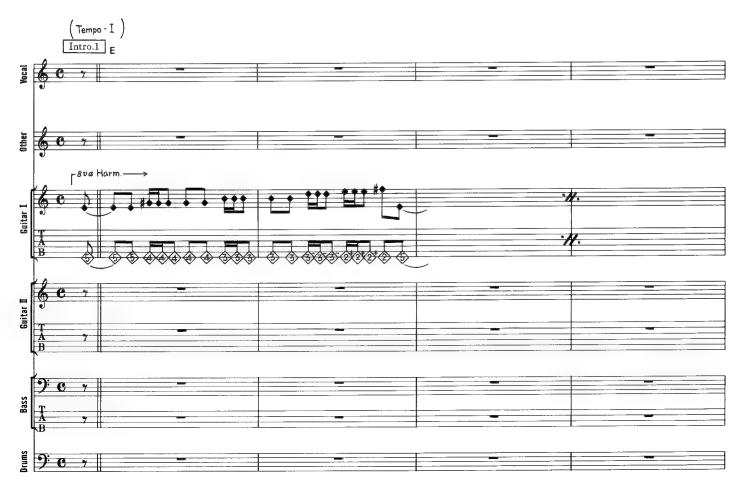
HERESY

ハラシー

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

ギターのハーモニクス奏法によるリフからこの曲はスタートしている。このハーモニクスは、タブ譜の位置の弦を左手で軽く触れるようにしてピッキングする"ナチュラル・ハーモニクス"のテクニックだ。譜面中、3⁻、2⁺とあるのは、それぞれ3フレットよりも少し下の位置、2フレットよりも少し上の位置をあらわしている。きれいなハーモニクス音が鳴るポイントをうまく見つけ出してもらいたい。このリフは、16分音符を使った細かいリズムになっているので、正確にピッキングすることもポイントとなるだろう。このIntro①の部分では、自動車の騒音のようなS.E.も録音されているが、これはギターの低音をアーミングすることで再現することが可能だ。Intro②のリフは、かなりスピードの速いものであり、ギターとベースはユニゾンになっている。ドラムの

バスドラも16分の連打でこれに合わせており、各パートの息を揃えてプレイするようにしたい。もちろんドラムはダブル・ペダルを使うようにしよう。Intro④からリズムのブリが変化しており、ここからは8ビートの演奏になっている。ギターのリフは、動きのはげしいコード・リフだが、少しスタッカートぎみに弾くと良いだろう。②の手前からテンポが変化しているので要注意だ。ここから少しアップ・テンポになっている。田のギター・ソロは、2本のギターのオーバー・ダビングによるハーモニー・プレイだ。アーミングを多用した、かなり変則的なフレーズが多いが、2本のギターのタイミングがピッタリと揃っている点が見逃せない。 図からは又、最初のテンポに戻っての演奏だ。













I















 $A^b B^b$

FE

47

F[#] G



























CEMETERY GATES

セミトリー・ゲイツ

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

図の部分、ギター2はアコースティック・ギターを使ってのアルペジオ・プレイだ。このフレーズでは、開放弦の音を鳴らしている間に素早くボジションを移動させるのがポイントとなるだろう。なお、使っているギターはフォーク・ギター・タイプの、スティール弦を張ったものだ。ギター1はディストーションのかけられたエレクトリック・ギターが使われている。このギターには、この部分エフェクターとして、ディレイもかけられており、雰囲気のあるフィル・イン・フレーズを弾いている。この曲ではキーボードとしてピアノも使われている。単音ではあるが、低音部で印象的なサウンドを鳴らしているようだ。この図の部分のベースはピアノとユニゾンに近いフレーズを弾いているが、ピアノよりも動きが多く、図の3小節目ではハーモニクス奏法なども行っている。図からのギター1は2本のギターによるオーバー・ダビング

されたものになっている。また、ハーモナイザーのようなエフェクターもかけられており、実際には3本以上の音が鳴っているようだ。国からは曲の雰囲気が変わっている。ここからは、ギターも2本ともにエレクトリック・ギターが使われ、2本をユニゾンで鳴らして、ハードで分厚いサウンドを作り出している。このギターの譜面で、〇印の付けられている音は、ピッキング・ハーモニクス奏法を行っている音だ。これはピッキングと同時にピックを持つ右手の親指を弦に当てるようにして、ハーモニクス音を鳴らしているものだ。国では、ミュートのテクニックを使った音もでてくる。これは、右手の腹の部分を弦に少し触れるようにしながらピッキングしているものだ。回のギター2は風の部分と同様のアルペジオ奏法だが、ここで使われているのはエレクトリック・ギターだ。ここではコーラス系のエフェクターがかけられている。

























































DOMINATION

ドミネーション

Words & Music by Vincent P.Abbott, Darrell L.Abbott, Rex R.Brown and Phillip H.Anselmo

ntro①のリフは、アップ・テンポの8ビート・リズムでの演奏だ。intro②では、全く同じリフを、16ビートのリズムで演奏しており、テンポも子になっているので気をつけてもらいたい。ここのドラムは、バスドラが16分音符の細かいリズムを刻んでいるので、ダブル・ペダルを使い、正確なリズムでプレイするようにしたい。Intro③直前は、3連符による主文のフレーズだ。この部分のギターはスタッカートで演奏されているが、これは右手で少し弦をミュートしながら弾くと良いだろう。Intro⑤から弾かれているギターとベースのユニゾン・リフは、非常にシンプルなものだが、細かい16分音符を正確に弾かないと、リズムがバラバラになりやすいので気をつけてもらいたい。ギターは、強力なディスト

ーション・サウンドでのプレイだが、ピッキングも力強く、はぎれの良いサウンドでプレイしたい。ベースやドラムもパワフルなプレイを心がけよう。又、ドラムのハイハットは、少しオープンぎみにして叩くと良いだろう。回回回は、ギター・ソロだ。回ではEのワン・コードでのプレイだが、ここではかなりスピードの速いフレーズを弾いている。かなり高度なテクニックが要求されるが、ハンマリングやプリングのテクニックをうまく使うのがポイントだ。回は2本のギターによるハーモニーになっている。しっかりとリズムを合わせよう。図の前から、テンポがゆっくりとなっている。ここからは雰囲気も少し変わって、どっしりとした重たいブリの演奏だ。





















































SHATTERED

シャタード

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

図の1~4小節は6連符を使ったフレーズが、ギター、ベース、それにドラムのバス・ドラと、ユニゾンのように弾かれている。ここはリズムが狂いやすいので、機械のように正確にピッタリと合わせるようにしてもらいたい。とにかくこの曲では、リズムの把握が一つのポイントとなるだろう。 図の後半部分では2/4拍子の小節があり、さらに図に入る時に、テンポが変化している。スピードがここで2倍に変化しているわけだが、これは決して正確なものではなく、プレイヤーの呼吸を合わせるようにして演奏しているようだ。フレーズごとのタイミングをしっかりと合わせることが必要になるはずだ。2本のギターはほとんどユニゾンで、プレイされている。これは左右のチャンネルに分けてミキシングされているわけだが、ディレイなどのエフェクターを使って同様の効果

を出しても良いだろう。 国からはリズムは8ビートのものになっている。少しアップ・テンポの元気の良い演奏だ。ベースやドラムのプレイはシンプルなものだが、一つ一つの音を力強くブレイするようにしよう。 回はギター・ソロになっている。 ここでソロを弾いているギター1は、オーソドックスなブルース・ペンタトニック・スケールを使ったフレーズをプレイしているようだ。 3連符が多く弾かれているようだが、テンポが速いので、かなりのスピードになっているようだ。 ハンマリングやプリングなどのテクニックを多用することで、流れの良い演奏を行うようにしよう。この曲のエンディングでも速弾きフレーズが弾かれているが、ここは、エンディングのフィル・イン・フレーズのようになっているので、譜面のリズム通りに正確に弾く必要はないものだ。











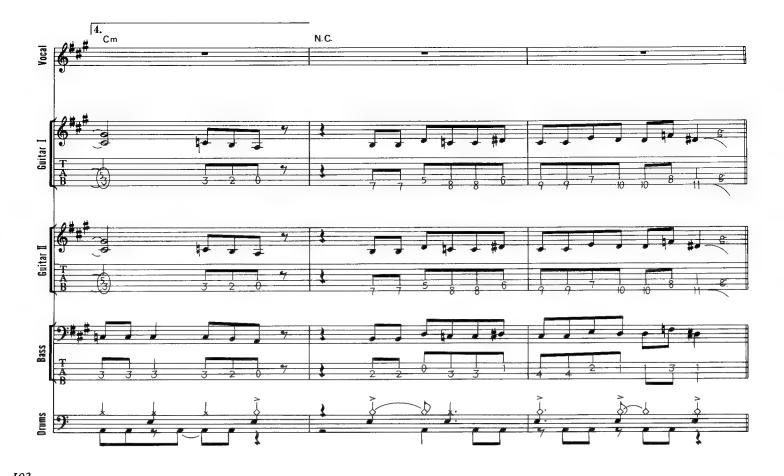






















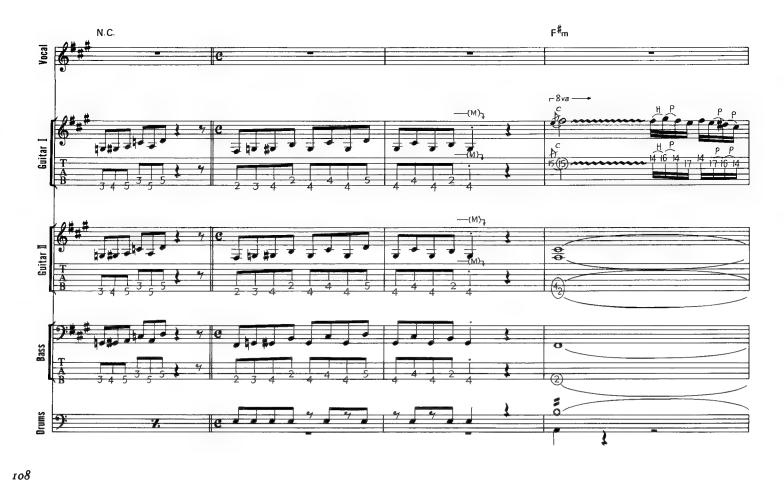


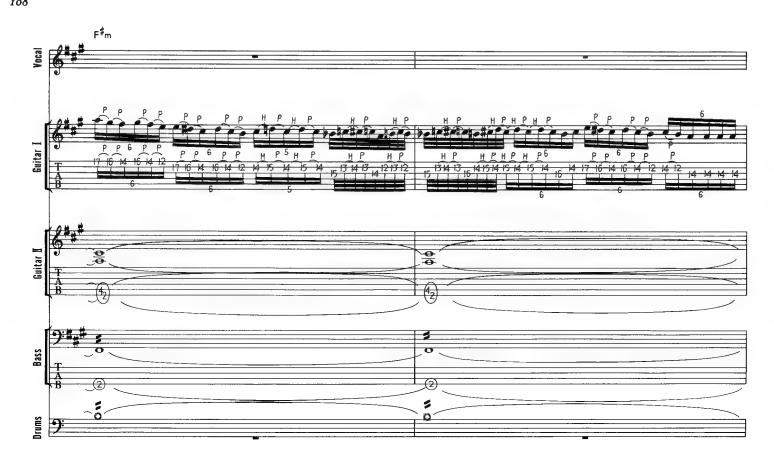
















$\rangle\!\rangle\!\rangle$

CLASH WITH REALITY

クラッシュ・ウィズ・リアリティ

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

ドラム・ソロからこの曲は始まっている。スネアのロール部分以外はイン・テンポでのプレイなので、他のパートのプレイヤーもリズムを見失うことがないように気を付けて演奏しよう。 ②からのドラムのリズム・パターンはちょっと変わっている。 これも8ピートのパターンの一つなのだろうが、普通と違って、スネアが1、3拍の位置に打たれているのだ。さらに②の最後の部分では一拍余計になっており、5/4拍子の小節がでてくるので、気を付けてもらいたい。②の部分は、S.E.として意味不明の人の話し声などが入れられている。これはサンプリング・マシンなどを使って再現してみても良いだろう。②の部分はまた変拍子だ。ここは付点8分音符が連続で演奏されており、ギターやベースのタイミングをしっかりと合わせてプレイしよう。②の4~7小節目のギターの音には○印が付けられているが、これはピッキング・ハーモ

ニクスのテクニックを使いながら弾いているものだ。またここではどの音にもヴィブラートをかけながら弾くことを忘れないでもらいたい。国の部分からヴォーカルがスタートしている。ここまでは言ってみればイントロになるわけだが、随分と長いイントロだ。さらにここでは転調もしており、かなり複雑な曲となっている。パンテラの曲はどれも決してシンプルなものはないのだが、変拍子や転調などは当たり前のように行われているようだ。国のギターのバッキングで、スタッカートの付けられている音が多くでてくるが、ここは少し右手を使って弦をミュート気味に弾くと良いだろう。国の部分はギター・ソロだ。譜面では1本のギターで弾かれているように書かれているが、実際は3本くらいのギターがオーバー・ダビングで重ねられているようだ。

IIO







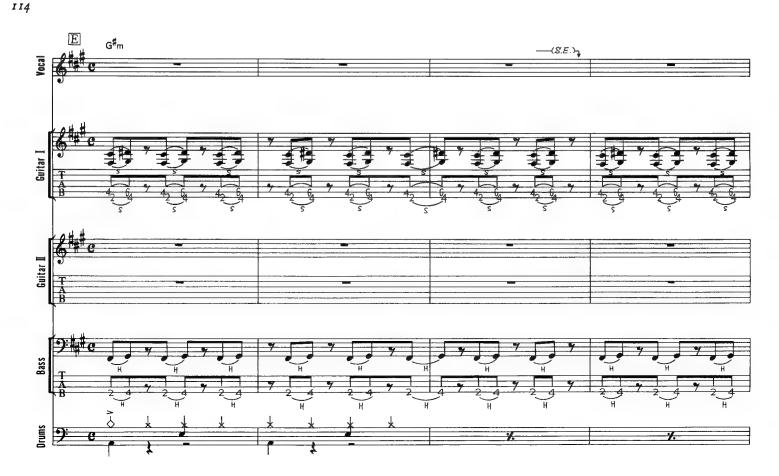




D





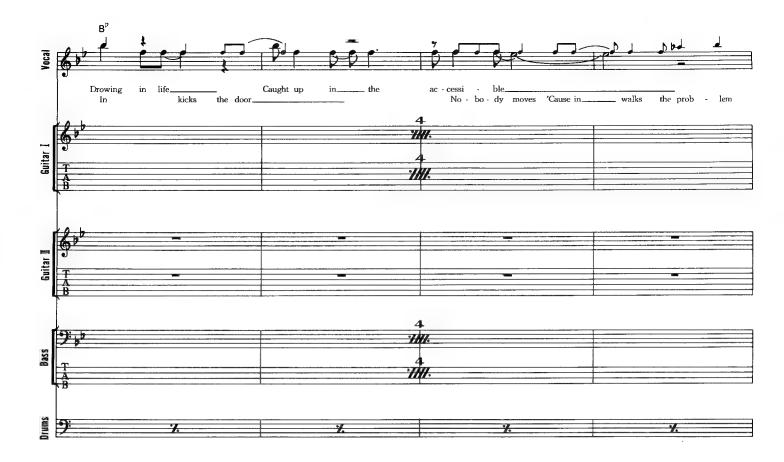


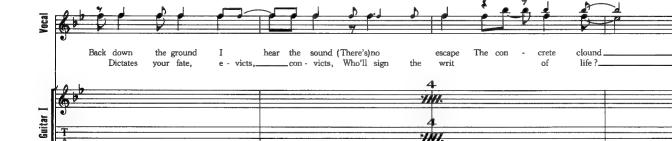




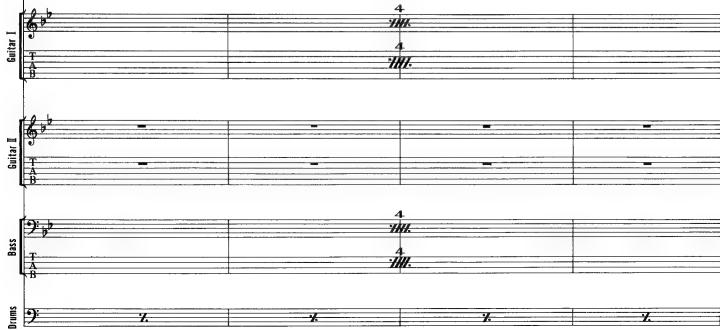
A⁻⁵

D





 B^p







Spilling

Guitar I

on me This Drench-ing becomes____ Their with bid

mor -

Lay game_

}}}}!















G[#]m











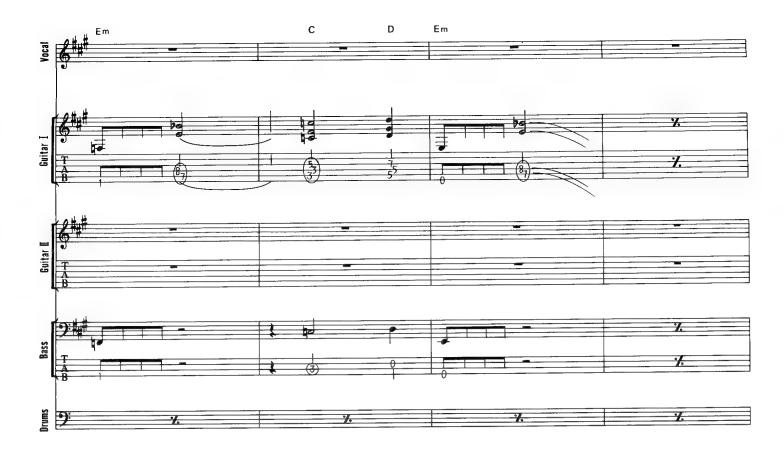


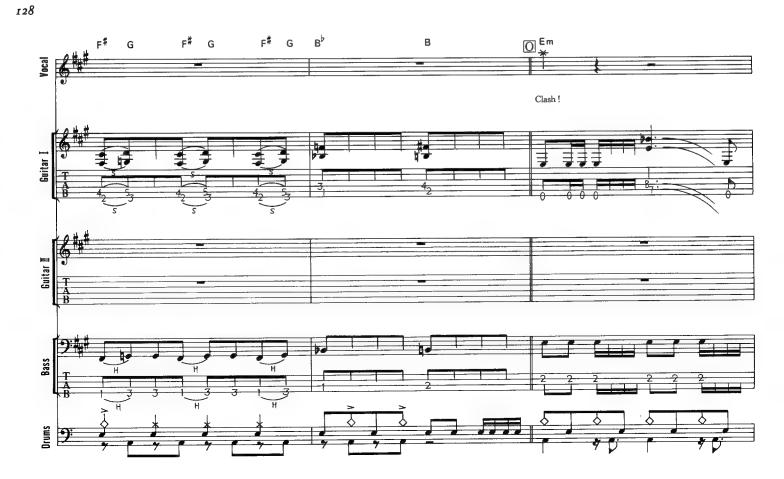
















MEDICINE MAN

メディシン・マン

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

この曲は、ギターとベースの最低音がDの音までなっている。ギターの6弦を、Dまで下げてチューニングしているようだ。ベースは、5弦ベースなどを使っている可能性もあるが、やはり4弦をDの音にチューニングするのがもっとも簡単だろう。譜面のタブ譜は、この変則チューニングによるものだ。イントロはフェード・インでのスタートだ。ベースは細かい16分音符の連続だが、リズムが乱れないように正確に弾いてもらいたい。ピックを使い、ダウンとアッブを繰り返す、オルタネイト・ピッキングを行うようにしよう。 回の4小節目からはギターとベースがユニゾンのフレーズを弾いている。ここはいかにもパンテラらしい複雑なフレーズだ。ここもリズムに注意して、ピッタリと合わせるようにしたい。ドラムのパターンも少し複雑だ。バス・ドラを細かく踏んでいる部分が多いので、ダブル・ペダルのセットを使った方が良い

だろう。「Aの途中ではギターが2本で3度のハーモニーを弾いている部分もある。ハーモナイザーなどのデジタル・エフェクターを使えば、一本のギターで弾けないこともないが、ここはオーバー・ダビングで重ねられたものだろう。「Aの最後の小節はリズムのキメになっている。ここも音がバラつかないように、ピッタリと合わせよう。「Bの部分、ギター1のサウンドはディストーションさせずにクリアなものが使われている。ここはさらにエフェクターとして、コーラス系のものが使われており、広がりのあるサウンドでプレイされている。このサウンドの切り替えをスムースに行うことが一つのポイントとなるだろう。「国はギター・ソロになっている。ここはDとAbという、ちょっと変則的なコード・チェンジだが、かなり速弾きフレーズをプレイしている。ピッキングを力強く行うようにして、迫力あるプレイをしてもらいたい。







A D

Buitar II







В

Α

С



D

Guitar I









 \square^{-5}

D

D

 $\boxed{\mathrm{D}}$ $\mathrm{D}^{\text{-5}}$







Guitar I







D





MESSAGE IN BLOOD

メッセージ・イン・ブラッド

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

不思議なコード進行や変拍子など、パンテラらしい曲ではあるが、こういった曲はかなり演奏しにくいものである。 回はベースとギターのユニゾンによる動きの激しいパターンとなっている。 特にギターはコードが目まぐるしくチェンジしているので、左手のポジション移動を素早く行う必要があるだろう。 回の5 小節目からは5/8拍子という変拍子になっている。 ここはスピードも速いので、リズムを数えるのではなくフレーズを身体で覚えるようにするのがポイントだ。 国はノーマルな8 ピートとなっているようだが、ギターはコードを一音ずつ変化させており、しっかりとしたフィンガリングが要求されるだろう。 回も変拍子の連続だ。ここはユニゾンのフレーズも多いので、しっかりと合わせるようにしてもらいたい。ここは4回繰り返している。 ダル・セーニョでもう一度この部分に後から戻るのだが、その時は2回だけの繰

り返しだ。構成が少し複雑になっているので気を付けよう。 □は 3 拍子だ。ここのバッキングはベースのリフをメインとした静か なものになっている。このベースのサウンドはエフェクターとし てコーラス系のものがかけられており、少し硬めのサウンドでブレイされているようだ。 亘からはギターもバッキングを行っているが、このギターはかなり強いピッキングで弾かれているようだ。 ○印の付けられている音は、ピッキング・ハーモニクスを行っているものだが、かなりアタックの強い、強烈なサウンドでブレイされている。 回はギター・ソロだ。ここはオーバー・ダビングにより3本以上のギターが重ねて録音されている。 譜面ではその中でメインの2本が採られている。 ⑤の前半は2本のギターがハーモニーのようにプレイされているが、フレーズをピッタリと合わせるのではなく、わざとルーズに弾いて雰囲気を出しているようだ。







Guitar I

Bass















child.

 Cm

I in

was differ

Since slay













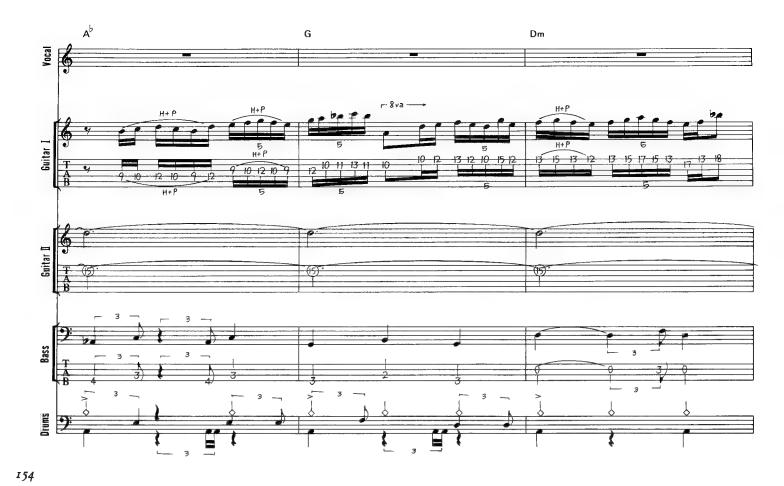


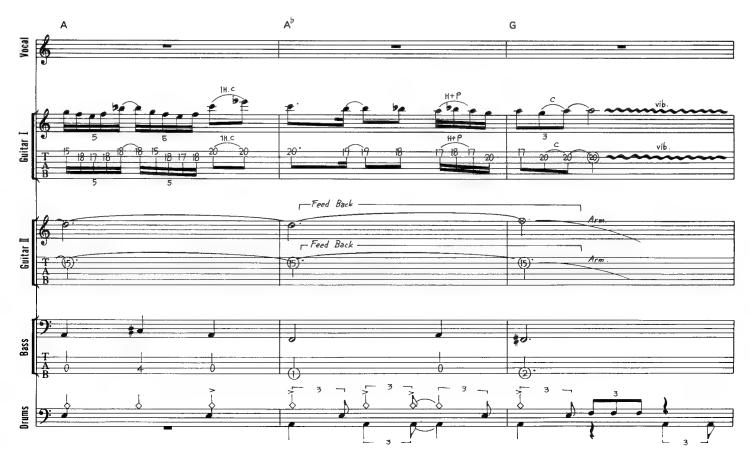






Cm



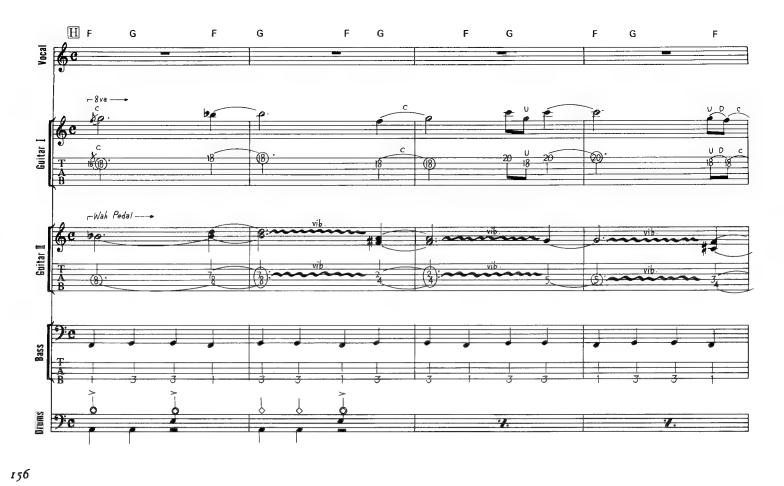






Εm

A Voca









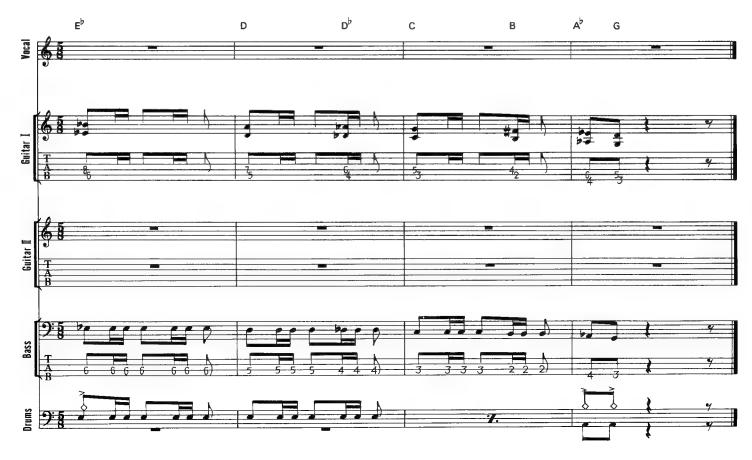




Vocal

life





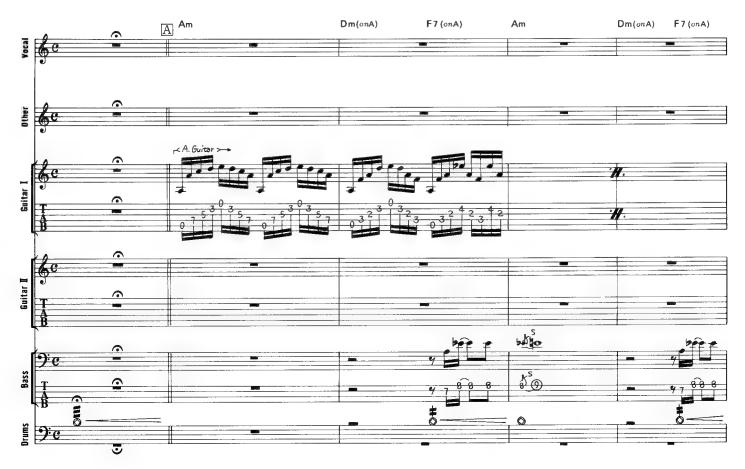
THE SLEEP

ザ・スリーフ

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

□の部分のギター1はアコギによるアルペジオ奏法だ。使われているギターは、スティール弦を張ったフォーク・ギターのようだが、コーラス系のエフェクターがかけられているようであり、ひょっとすると、エレアコ・タイプのギターが使われているのかもしれない。この部分、ペースがメロディアスなフレーズを弾いているが、そのサウンドも高音を強調した、ギターに近いようなものになっている。ここは、ピッキングを軽くした静かな演奏だ。 □からはギターも、ディストーション・サウンドのエレクトリック・ギターが使われ、ベースやドラムのサウンドもハードで迫力あるものになっている。 例によって、この部分のコードやメロディーは非常に前衛的だ。理論的には考えられないようなコード進行でも、パンテラの演奏では自然に聴こえてしまうところがユニークである。 回はアルペジオ・フレーズだ。この雰囲気のまま、

回からはギター・ソロ。ここはキーボードも入れられている。これはストリングスのサウンドのシンセであり、たった一つの音だけではあるが、高音部で鳴らすことによって、美しい効果を出しているようだ。このギター・ソロで弾かれているフレーズも、国の部分では、考えられないようなメロディアスで美しいものになっている。ギターには、少しディレイをかけて、劇的に盛り上げるようにプレイしよう。ギター・ソロは国の部分でも続いている。ここはアーミングやピッキング・ハーモニクスのテクニックも使い、さらにエフェクターとして、部分的にワウ・ペダルも踏まれている。これはあまり極端にサウンドを変化させるのではなく、ほんの味付け程度にペダルを踏むように。ギター・ソロは国の部分まで弾かれている。後半かなりスピードの速いフレーズも弾かれているが、どの音も力強くピッキングしたい。









































THE ART OF SHREDDING

ジ・アート・オブ・シュレッディング

Words & Music by Darrell L. Abbott, Vincent P. Abbott, Philip H. Anselmo and Rex R. Brown

ベースとドラムによるノリの良い8ピート・パターンからこの 曲は始まっている。 🖾 の 5 小節目からギターもスタートしている わけだが、ここで弾かれている音は何とも不思議なサウンドだ。 ベースがEの音を弾いているのにギターは、E¹とB¹の音を鳴らして いるのだ。ここは一種の効果音をギターは弾いていると考えた方が良いだろう。 🖾 の 8、12小節目で弾かれているアーミングによる フレーズも面白い。ここは 1 弦の 1fあるいは2fなどで、非常に高音のハーモニクスを鳴らし、それをアーム・ダウンさせているもの だ。これも効果音の一種なので、音程などは気にせずに、思い切ったプレイをすると良いだろう。 🖹 のギター・リフはどの音も非常に力強いピッキングで弾かれているようだ。 🖹 のリフは右手で弦をミュートしながら弾いている。 これはあまり極端に弦をミュートせずに、ほんの少し音がスタッカートするくらいでいいだろう。

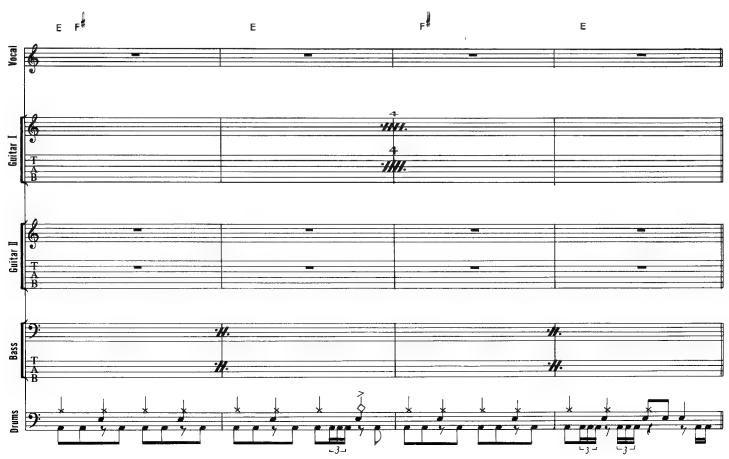
回からテンポがチェンジしているので気を付けてもらいたい。ここから少しアップ・テンポになっているのだ。ベースやドラムは、ギターのリズムに合わせるようにすると良いだろう。ドラムはバス・ドラのリズムでかなり細かいところがでてくるのでダブル・ペダルを使ってプレイしよう。 [』からまたテンポが変わっている。ここからは、少しスロー・テンポでのプレイだ。このテンポ・チェンジのタイミングを、しっかりと合わせることがポイントとなるだろう。 [2] からは再びアップ・テンポとなり、ギター・ソロがプレイされている。ここのギターにはディレイが少しかけられており、2本のギターをオーバー・ダビングしたような、立体感のあるサウンドとなっている。また、このソロでは、アーミングのテクニックも多用されている。アームは思いきり派手に使った方が良さそうだ。











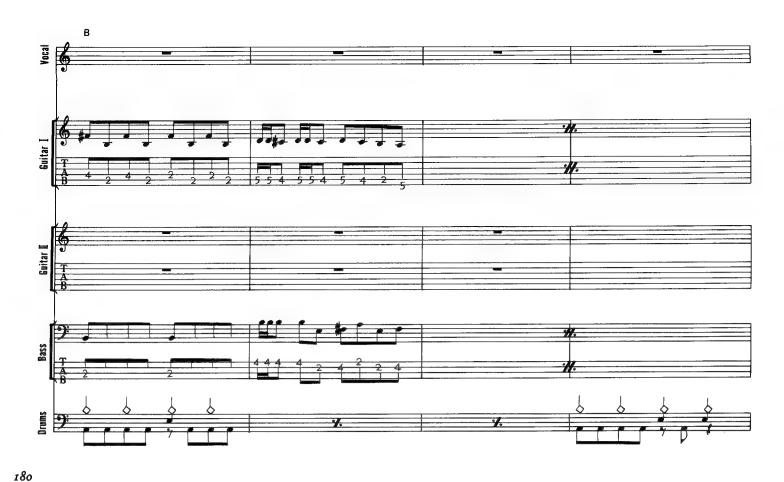




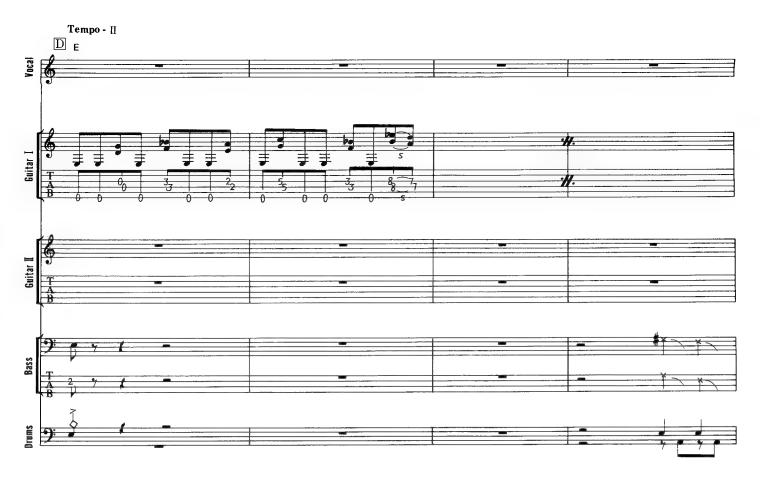
 \boxed{C} в

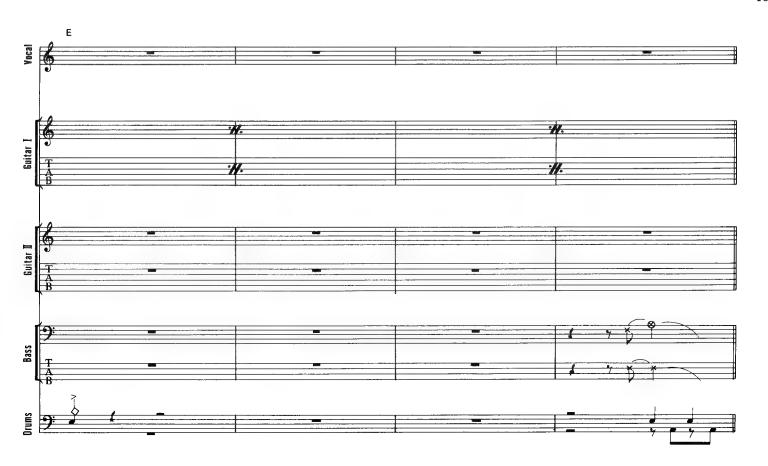
A Coca

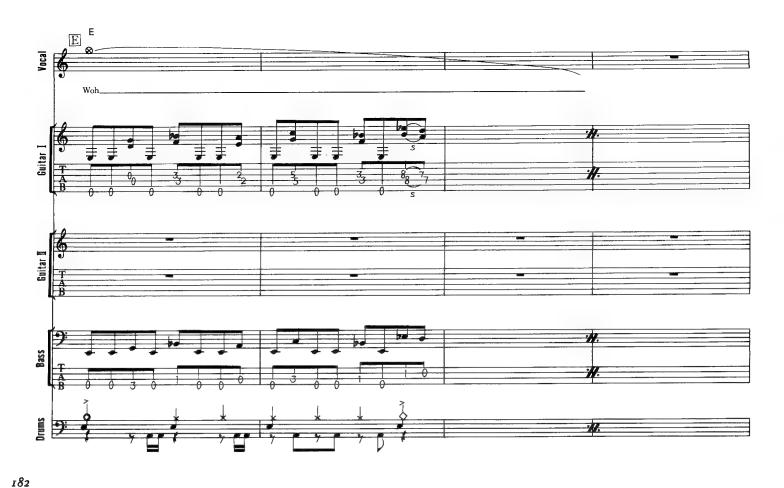
Guitar II















F[#] G[#]

eyes

thing

to

ra · re

si - ety

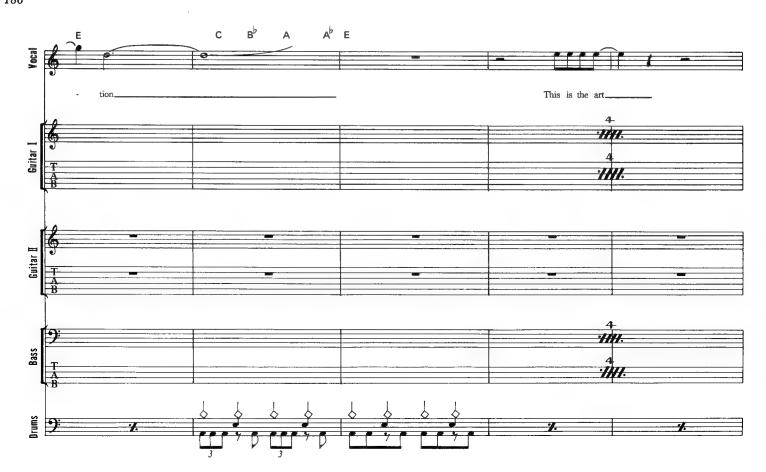
when so

(with Repeat)





















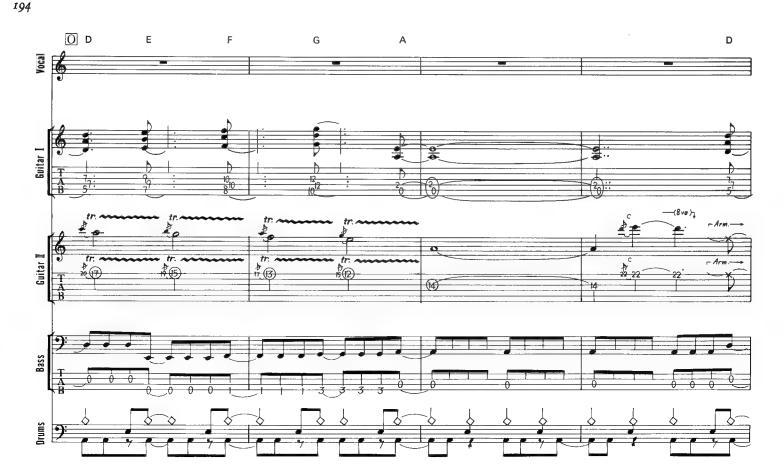






















⊕Coda@ E

COWBOYS FROM HELL

COWBOYS FROM HELL
PRIMAL CONCRETE SLEDGE
PSYCHO HOLIDAY
HERESY
CEMETERY GATES
DOMINATION
SHATTERED
CLASH WITH REALITY
MEDICINE MAN
MESSAGE IN BLOOD
THE SLEEP
THE ART OF SHREDDING

